

夢をかたちに

# 少年消防クラブから

# 消防士に

〒231-0968 海老名市 消防本部 1階会議室

ことし4月、幼い頃からの夢をかなえて新たに社会人としての第1歩を踏み出した若者がいます。海老名市少年消防クラブ出身者で初の消防職員となった中村 董すみれさん。少年消防クラブが創設された平成23年、当時中学2年生だった彼女は同クラブの門をたたき、翌24年もクラブ員として活動しました。2年間、同クラブの中心メンバーとして活動する中で、子どもの頃からの憧れが「消防士になりたい」という現実の目標に変わっていったという中村さん。ここでは、彼女の原点ともいえる同クラブのこと、実際に消防職員となった現在までのことを聞きました。



▲笑顔が印象的な中村さん

## 海老名市少年消防クラブへ

「クラブに入る前は、消防の仕事は消火や人命救助のイメージしかなかったのですが、活動を続ける中で救急や災害対策なども消防の仕事だと知ることができました。日常生活の中で役立つことも学べ、現場の職員の皆さんとも接していく中で、消防士になりたいという気持ちは、より強くなりました」



▲消防操法大会で模範演技を行う少年消防クラブ時代の中村さん

## 消防学校では「体力賞」を受賞

消防職員として採用されると、横浜市を除く県内の新人全員が、県の消防学校で半年間の訓練を課されます。ことし9月末の同校卒業時、中村さんは持ち前のやる気と努力で、243人(うち女性17人)の訓練生の中で優秀な成績を修めた者に与えられる「体力賞」を受

賞しました。「消防学校の訓練はきつかったです。初めての寮生活など、慣れないことも多かったですが、仲間の大切さを痛感しました。消防の仕事は一人ではできません。同期の職員などと励まし合いながら乗り切りました」

## 消防職員として

10月からは消防署に配属となり、新たな訓練の日々が始まっています。消防職員の多くは男性のため、女性ならではの悩みもあるといいます。

「体力面ではどうしても男性になわない部分もあります。しかし、現場では男女関係なく活動しなくてはなりません。今は仕事に慣れるのに精いっぱいですが、今後は体力面はもちろん、周囲への気配りなども

め細かな配慮を忘れずに自分のスキルを上げていき、長く現場の仕事をしていけるようになりたいです」

## まずはクラブに

「クラブ員は小学生が多いイメージを持たれるかもしれませんが、中学生にもぜひ参加してもらいたいと思います。私は職員に採用されてから、少年消防クラブ出身の職員第1号ということを知りました。クラブ出身の消防職員が増えてくれるとうれしいです」

中村さんに続く未来の消防士たち、ぜひ少年消防クラブにご参加を。

## 海老名市少年消防クラブ員を募集します



消防の仕事に興味がある方、体験したい方、海老名市少年消防クラブ員として活動してみませんか。同クラブでは、消防・救助の訓練体験、災害時に備えた宿泊体験学習などのほか、出初式や消防操法大会などの各種行事で防火・防災に関する啓発活動を行っています。



▲活動の様子。応急処置訓練や渡過訓練、降下訓練などを行う

▼対象 市内在住の現在小学校3年生～中学校2年生(男女不問)

▼定員 30人程度

▼活動期間 平成29年4月1日～30年3月31日

※原則(土)(日)のいずれかで、月1回程度活動します

▼申し込み 12月1日(木)から、申込用紙に必要事項を記入し、直接または郵送で予防課(〒243

10411大谷816)へ。申込用紙は、市消防本部・北分署・南分署で配布または市ホームページからダウンロードできます。平成29年1月27日(金)必着。

## 【事前説明会】

クラブの詳細を説明します。保護者は必ず出席してください。お子さんの同席も可能。

▼日時 平成29年2月4日(土) 10時から

▼場所 消防本部1階会議室



少年消防クラブは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け活動しています。活動服などの一部は、「宝くじ助成金」で整備しています。